

令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会
兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会
＜Bブロック 2回戦＞

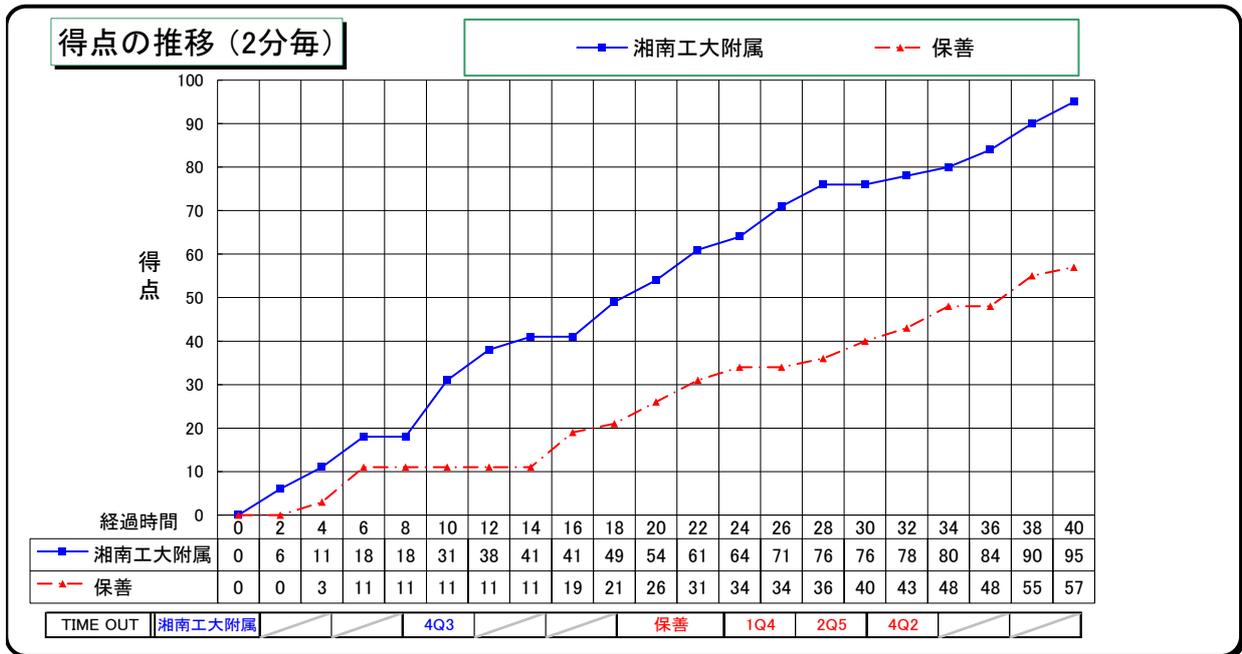
令和5年6月3日(土)	アダストリアみとアリーナ	大会1日目	Aコート	第5試合 15:00～												
<チームA> 湘南工大附属 神奈川		95 <table border="0"> <tr><td>31</td><td>1Q</td><td>11</td></tr> <tr><td>23</td><td>2Q</td><td>15</td></tr> <tr><td>22</td><td>3Q</td><td>14</td></tr> <tr><td>19</td><td>4Q</td><td>17</td></tr> </table>	31	1Q	11	23	2Q	15	22	3Q	14	19	4Q	17	57	<チームB> 保善 東京
31	1Q	11														
23	2Q	15														
22	3Q	14														
19	4Q	17														

主審: 齊藤 貴嗣 (東京) 第1副審: 土屋 友由 (埼玉) 第2副審: 鳩貝 翔太 (茨城)

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
○	00	川口 湧正			1								
○	0	竹内 快成	2			1	4						
◎	3	米山 莉生	24	3	4	6	13	3	4	3	3	5	1
	4	山田 哉登											
◎	5	脇 明佑斗	7	1	1	2	5			1	2	2	
	8	鎌田 倅明	2		2	1	2						1
○	10	石川 葵	9			4	5	1	2	1	5	2	
○	13	座間 大飛			3		1					2	
◎	14	木村 怜嗣	13		1	4	8	5	6	4	3	3	
○	15	楠原 史悠				4				1			
○	18	宮崎 史弥	10		1	5	6			2	1	1	1
○	20	皆川 晴								1		5	
	32	シライ レネ											
◎	38	穂谷野 駆	18	2	5	4	9	4	4	1	2	4	
◎	91	オディギェ プレシャス恵	10	2	2	2	8			3	4	7	1
		コーチ 今野 雄三											
合計			95	8	20	29	65	13	16	17	20	31	4

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
○	4	中島 晟	3	1	2					1			
◎	5	小川 魁斗	18	2	6	5	13	2	4	2		4	1
○	6	酒井 小次郎	2			1	4		2	2		2	
	7	峯村 日向											
◎	8	澤田 嶺				2					1		
◎	9	大津 光合	10	2	2	1	3	2	2	3		3	3
○	10	清水 敬心			1		1						
○	11	四宮 友之真											
◎	12	石綿 亜友人				2		2	1	3	3		
◎	13	野口 緋秋	11	1	2	3	6	2	2	2	3	5	1
○	14	本田 洸介	9	3	7					1	1	2	
	15	満 家成											
○	16	川崎 湊翔	2		1	1	1						
○	17	福原 見真											
○	18	榎本 春駆	2			1	1			4	1	2	
		コーチ 真部 貴之											
合計			57	9	21	12	33	6	12	16	9	21	5

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート / 2P:2点シュート / FT:フリースロー / F:パーソナルファウル



戦評 記入者: 齋藤 高史

2回戦、湘南工科大学附属(以下湘南工科)対保善。立ち上がりは両チームマンツーマン。序盤、湘南工科は、#5脇のゴール下や#14木村のリバウンドシュートとゴール下のシュートで先手を打つ。保善はシュートをことごとくリングに弾かれ、湘南工科のオールコートプレスが保善のミス誘う。たまたらず、保善は無得点のまま、開始3分半でタイムアウトを取る。タイムアウト後、保善は息を吹き返し、開始4分半で#5小川の3Pで初得点し、続けて、#6酒井がジャンプシュートなどを決め、徐々にペースを掴み始める。そして、湘南工科が続けるオールコートプレスの網を保善は掻い潜っていく。それに対し、湘南工科は、#14木村がゴール下やローポストの1対1で加点していく。残り1分半になると湘南工科のオールコートプレスが保善のミス誘発させることができるようになり、#91オディギェのリバウンドなどでゴール下も支配する。第1Qは、31-11で湘南工科がリード。

第2Qに入っても、湘南工科のペースが続く。ディフェンスでは激しいプレスで24秒オーバータイムを、オフェンスでは#38穂谷野の3Pやリバウンドルーズからの得点などでリードを広げていく。その中で、保善は湘南工科の激しいプレッシャーディフェンスを躲し、#5小川のドライブや#4中島、#9大津の3Pなどで点差を縮めようと食らいつく。だが、湘南工科はディフェンスのプレッシャーを緩めない。前半は、54-26で湘南工科がリードを保ったまま前半を終える。

第3Qに入っても、湘南工科は#91オディギェのオフェンスリバウンドや#38穂谷野がリバウンドのルーズボールをもぎ取る。保善は、攻守の切り替えを速め、試合のペースを上げようとする。#5小川は3pを決めるが、そのすぐ後に、湘南工科#38穂谷野、#3米山が連続3Pを決める。保善は#5木村を中心に攻めるが、3Qは76-40と湘南工科がリードしたまま第4Qに入る。

第4Qも双方とも攻守の切り替えの速い展開が続く。保善は1-2-2オールコートゾーンプレスで少しずつ本来のリズムを取り戻し、#14本田が2連続の3Pや速攻から#5小川のレイアップを決める。しかし、湘南工科は最後までリードを保ち、95対57で湘南工科が準決勝に駒を進めた。湘南工科の攻守にわたる激しさを見せた試合だった。その中で、最後まで諦めない保善の姿勢を賞したい。